2011876H52801

MITSUBISHI ELECTRIC

三菱業務用単独加湿ユニット　カセット形

形名

TKA-2200C-50
TKA-2200C-60

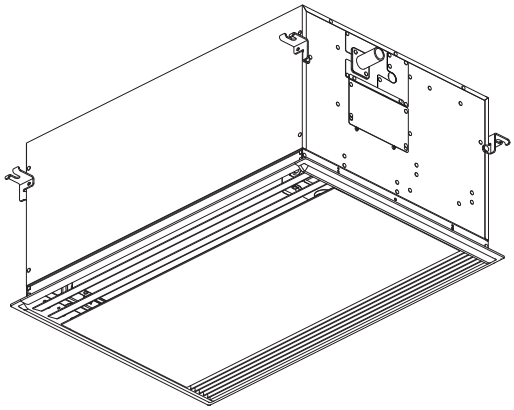
据付工事説明書　　販売店・工事店様用

据付工事を始める前に必ずこの据付工事説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

据付工事は、販売店様、または専門の工事店様が実施してください。
間違った工事は、故障や事故の原因になります。
お客様ご自身では据付けないでください。（安全や機能の確保ができません）
給水配管工事は、所轄水道局（水道事業者）指定の給水装置工事事業者の方が実施してください。

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。
据付工事が終わりましたらこの説明書とともに、お客様に必ずお渡しください。
別冊の取扱説明書に従って、正しい使いかたをご説明ください。

■この製品にはリモコン他、別売のシステム部材が必要です。カタログ等により別途ご用意ください。



もくじ

	ページ
安全のために必ず守ること	2〜3
外形寸法図	4
標準据付例	4
据付方法	5〜18
機能設定	19〜24
据付工事後の確認	24
試運転	25〜27

安全のために必ず守ること

■誤った取扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、軽傷または建物・機械などの物的損害に結びつくもの。

■“図記号”の意味は次のとおりです。

	禁止		浴室据付禁止
	分解禁止		指示に従い必ず行う
	アース線を必ず接続せよ		

⚠警告

禁　止	**高温（40℃以上）や直接炎が当たったり、油煙の多い場所には据付けない** 火災の原因
	低温（0℃以下）となる場所には据付けない 電磁弁、配管等が破裂し、水漏れの原因
	有害ガス・腐食性成分 (*) を含んだガスが発生する場所には据付けない (*) 機械および化学工場などで発生する酸・アルカリ・有機溶剤・塗料など 絶縁劣化による漏電火災や故障の原因
	塩害・温泉害などの発生している場所には据付けない 絶縁劣化による漏電火災や故障の原因
	外気を吸い込ませない 結露による感電や故障の原因
	電気・電子機器等濡れて困るものの上には据付けない 漏電火災や故障の原因
分解禁止	**改造や必要以上の分解をしない** 火災・感電・けがの原因
浴室据付禁止	**浴室など湿気の多い場所には、本体・リモコンとも据付けない** 感電および故障の原因
アース線を必ず接続せよ	**アース (D 種接地) を確実に取付ける** アースを取付けないと故障や漏電のときに感電の原因

指示に従い必ず行う	**定格電圧、制御容量範囲内で使用する** 間違った電源で使用すると、火災や感電の原因
	本体の据付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行う 落下によりけがの原因
	端子台接続部は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する。 接続に不備があると火災の原因
	電気工事は、電気工事士の有資格者が規定・基準（*）や据付工事説明書に従い据付ける (*)「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」 電源回路容量不足や取付不備があると感電、火災の原因
	必ず専用回路とし、正しい容量のブレーカーを使用する 電源回路容量不足があると感電、火災の原因
	漏電保護用に電源側へ漏電ブレーカーを使用する 漏電した場合、火災の原因
	コントロールボックスは施工後、必ず取付ける ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因
	電気工事の際は、必ず分電盤のブレーカーを切る 通電状態では感電やけがの原因
	凍結のおそれのある地域では、必ず凍結防止工事を行う 電磁弁・配管などが破損し、水漏れの原因
	据付け後長期間ご使用にならない場合は、必ず分電盤のブレーカーを切る 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因

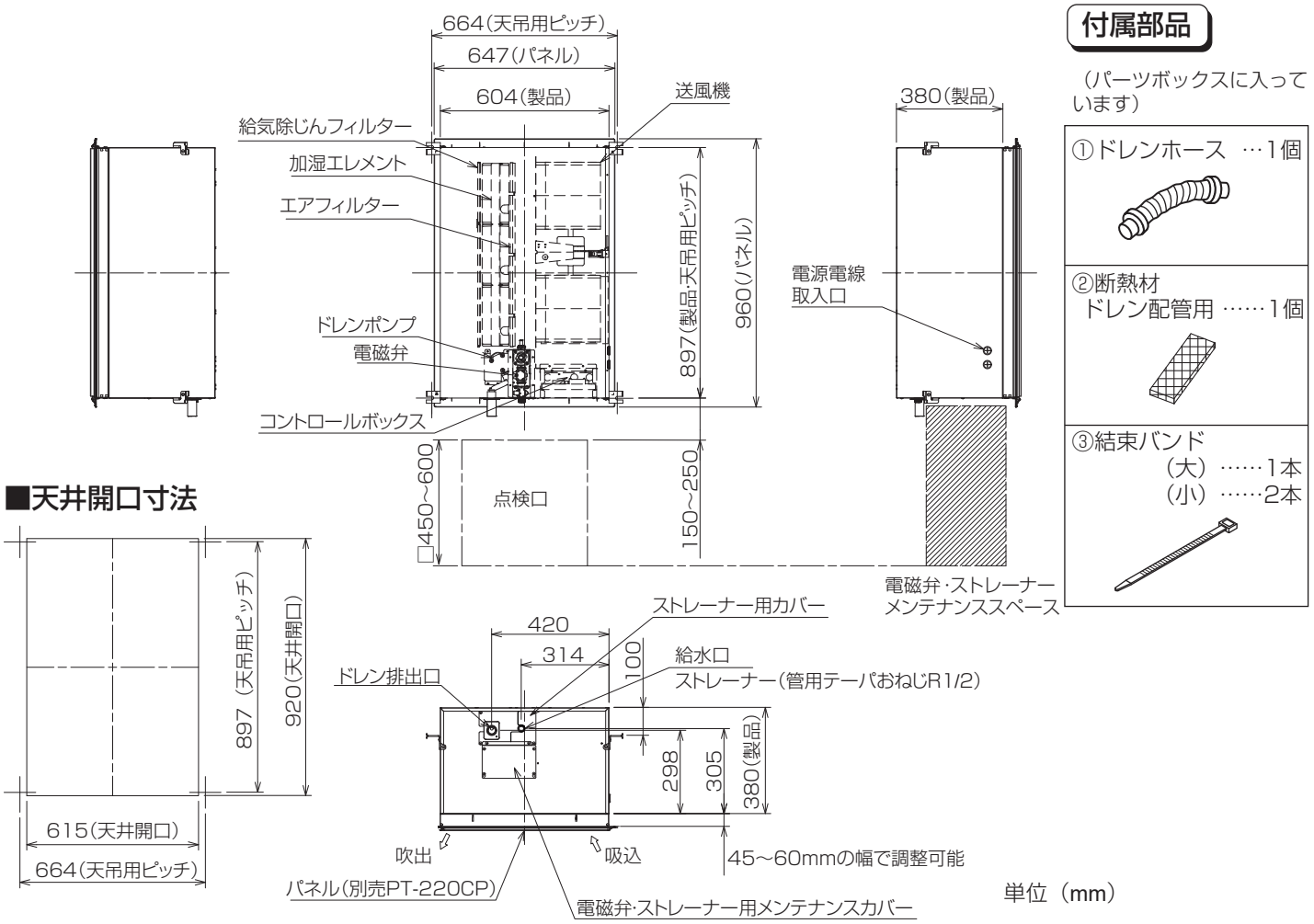
⚠ 注意

禁止	**ドレン配管の途中に市販のドレンポンプ（ドレンアップメカ）を接続して排水を処理しない** 製品の異常停止や、ドレンポンプの故障により水漏れし、天井・床・その他、大切なものを濡らす原因	指示に従い必ず行う	**運搬・据付けの際は手袋を着用する** 着用しないとけがの原因
	ドレン配管の先端を雨どい等に入れない 大雪時、雨どいが凍結して排水されず、本体から水漏れする原因		**製品の運搬は十分注意をして行う** 原則として二人以上で行う。梱包用PPバンドなどで所定の位置以外を持たない。
	軟水器を使用しない 残留物が析出し、飛散する原因		**吊りボルト・ナット・ワッシャーは必ず指定のものを使用する** 指定以外のものを使用すると落下の原因
	過加湿にしない 結露により、建物を傷める原因		**ドレン配管工事は据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう断熱処理をする** 配管工事に不備があると、水漏れし、天井・床その他家財などを濡らす原因

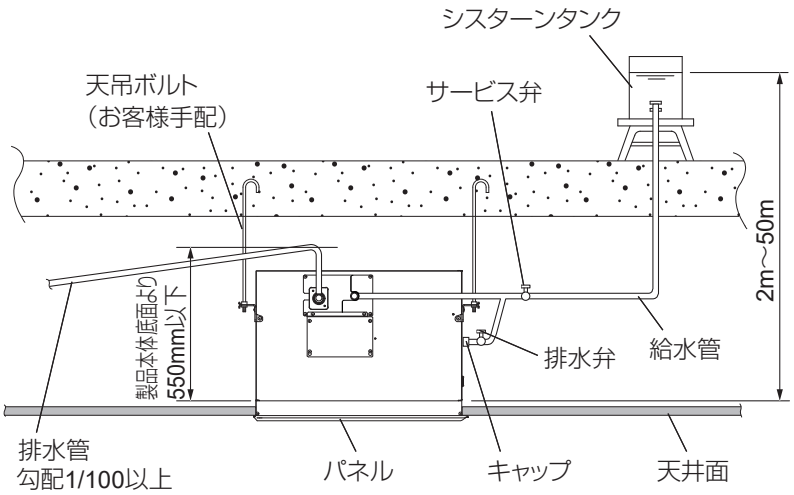
お願い

- 本製品は室内空気の循環加湿を行う製品です。吸込空気に外気を入れないでください。
- 運転・停止時に加湿部が0℃以下とならないところに据付けてください。
- 天井材は共鳴しにくい材質をご使用ください。
- 給水・排水工事は各市町村の条例に従ってください。
- 濡れて困るものの上に製品を設置しないでください。
- 本製品は定期的なメンテナンスを怠ると性能低下の原因となります。メンテナンスのために必ず本紙に記載しているメンテナンススペース、点検口を設置してください。

外形寸法図


664(天吊用ピッチ)
647(パネル)
604(製品)
送風機
給気除じんフィルター
加湿エレメント
エアフィルター
ドレンポンプ
電磁弁
コントロールボックス
897(製品・天吊用ピッチ)
960(パネル)
380(製品)
電源電線
取入口
□450～600
点検口
150～250
電磁弁・ストレーナー
メンテナンススペース
■天井開口寸法
897(天吊用ピッチ)
920(天井開口)
615(天井開口)
664(天吊用ピッチ)
ストレーナー用カバー
420
314
100
給水口
ストレーナー(管用テーパおねじR1/2)
ドレン排出口
298
305
380(製品)
吹出
吸込
45～60mmの幅で調整可能
パネル(別売PT-220CP)
電磁弁・ストレーナー用メンテナンスカバー
単位(mm)
付属部品
(パーツボックスに入っています)
①ドレンホース …1個
②断熱材
ドレン配管用 ……1個
③結束バンド
(大) ……1本
(小) ……2本

標準据付例


シスターンタンク
天吊ボルト
(お客様手配)
サービス弁
2m～50m
製品本体底面より
550mm以下
排水弁
給水管
排水管
勾配1/100以上
パネル
キャップ
天井面

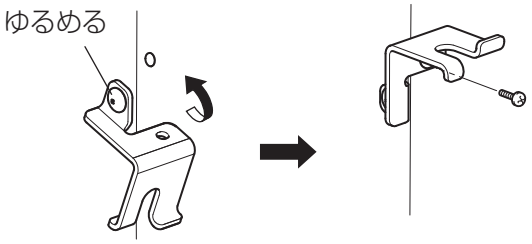
据付方法

■据付工事の流れ

据付け前の準備 ▶ 本体の据付け ▶ パネルの取付け ▶ 電気工事 ▶ 機能設定 ▶ 据付工事後の確認 ▶ 試運転

据付け前の準備

1

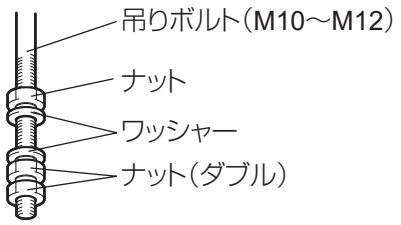


天吊金具の固定

1. 天吊金具のねじをゆるめる。
2. ゆるめたねじを中心に天吊金具を90°回転させ、水平にする。
3. ゆるめたねじおよび付属の取付ねじ（十字穴付トラス小ねじ M5）で製品にしっかり締付け、固定する。

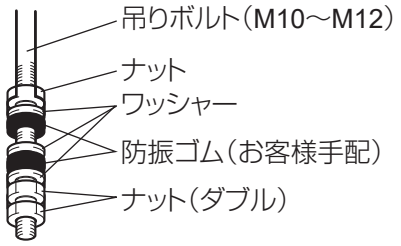
※天吊金具は工場出荷時、本体にたたんだ状態で固定されています。

2



ワッシャー・ナットの取付け

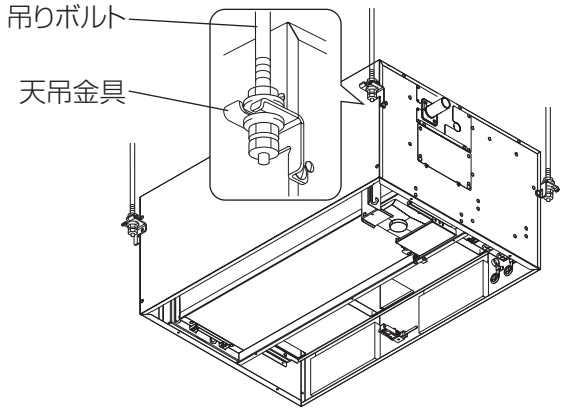
あらかじめ埋め込んである市販の吊りボルト（M10～M12）に左図のように市販のワッシャー（外径M10で21mm以上、M12で24mm以上）・ナットを取付ける。ゆるみ防止のためダブルナットで確実に取付ける。



【防振ゴム（お客様手配）を使用する場合】

防振ゴム（お客様手配）を使用する場合は、強度低下の原因になる可能性がありますので、左記のような施工を推奨します。

本体の据付け



本体の固定

1. 天吊金具（4か所）を吊りボルトに引っ掛け、本体が水平になるよう調節する。

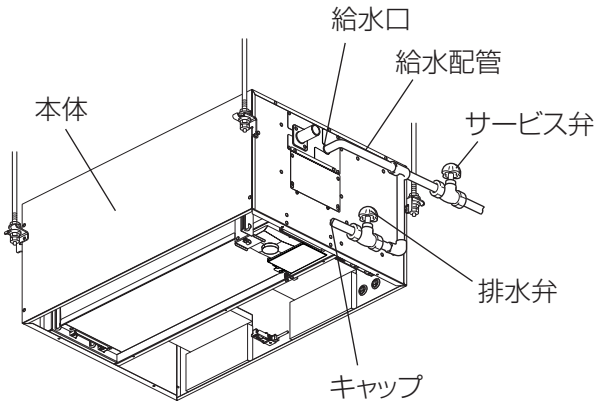
2. 本体が水平になるように調節し、ゆるみ防止のためダブルナットで確実に締め付ける。

- 上記取付けが守られないと排水が排出されず、残水から不純物（白粉等）が発生する原因となります。

お願い

- 本体を吊り上げるとき、外装ケーシングに力が加わるような取扱いをしないでください。
- 吊りボルトは耐震など必要に応じ、振れ止め用耐震支持部材にて補強を行ってください。
- 電磁弁給水口、ドレン排出口位置のサービスカバーをはずすため、吊りボルトがサービスカバーにかからないようにボルトを切断してください。

据付方法 つづき



換算のしかた

1 MPa ＝ 10.197kgf/cm²
目安として　1 kgf/cm² ≒ 0.1MPa で換算する

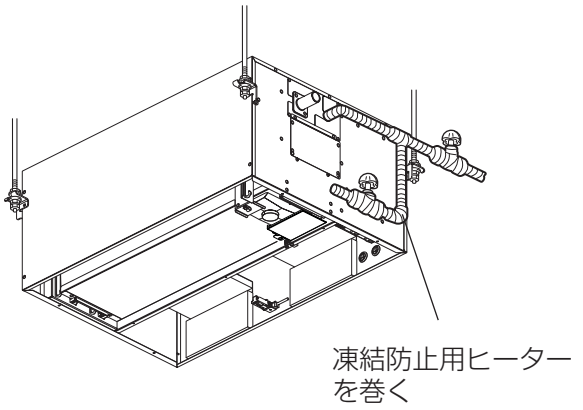
給水配管工事

給水配管工事に際して給水配管と給水口（管用テーパオねじ R1/2）との間に、屈曲・振動などを吸収するため市販の可とう性のあるフレキシブルパイプ等を使用して接続する。

- 給水口と接続の際はねじの種類に注意し、ねじの種類をあわせて工事を行う。
- 給水は、市水または上水を使用し防露工事を行う。（凍結のおそれのある場合は凍結防止工事を行う）
- 給水圧力は水道管に接続する場合、シスターンタンクを使用する場合、いずれの場合も 0.05MPa ～ 0.49MPa になるように設定する。
- シスターンタンク等を使用する場合、給水量は 350cc/分 確保してください。
- 給水口近くにサービス弁・排水弁を設置して給水配管を行う。
- 給水配管工事の際、切り粉などが入らないよう真水できれいに洗い流してから配管するか、配管途中に排水弁を設け、水の白濁がなくなるまで十分予備排水を行う。（排水が不十分な場合は電磁弁の故障や加湿エレメントの機能低下の原因になります）
- 給水はシスターンタンク使用以外に水道管を直接接続することもできます。（地区により規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄官庁にご相談ください）

お願い

- 給水配管工事は、所轄水道局（水道事業者）指定の給水装置工事事業者の方が指定された配管材料を使用して施工してください。
- 給水温度は 5℃～ 40℃としてください。
- 排水弁およびサービス弁は点検口からとどく範囲に設置してください。
- 給水口に力が加わらないよう給水配管を固定してください。
- 給水に配管工事用切削油・洗浄液が混入しないようご注意ください。
- 給水配管およびドレン配管が電磁弁・ストレーナー用メンテナンスカバーの開閉および電磁弁やストレーナーのメンテナンスの妨げにならないよう配管してください。
- 切削油などの油類は加湿エレメントおよびドレン皿を劣化させますので、供給水に切削油などが含まれないようにしてください。付着した場合には直ちに多量の水で洗い流してください。
- 給水装置の水圧検査時は、必ずサービス弁を閉じてから行ってください。



凍結防止工事

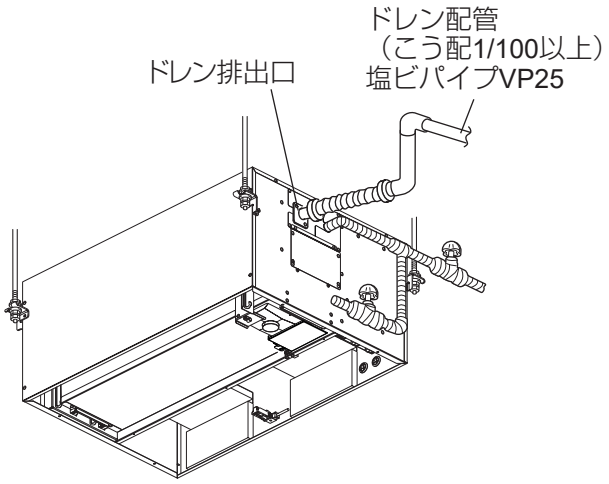
給水配管に凍結防止用ヒーター（市販品）を巻き凍結防止を行う。

- 凍結防止用ヒーターは単独加湿ユニット本体（給水口）まで巻く。
- 冬期（加湿時期）に、凍結するおそれのある地域では必ずヒーターの電源を入れる。

⚠ 警告

凍結のおそれのある地域では、給水配管に必ず凍結防止工事を行う
電磁弁・配管などが破損し、水漏れの原因

ドレン配管工事



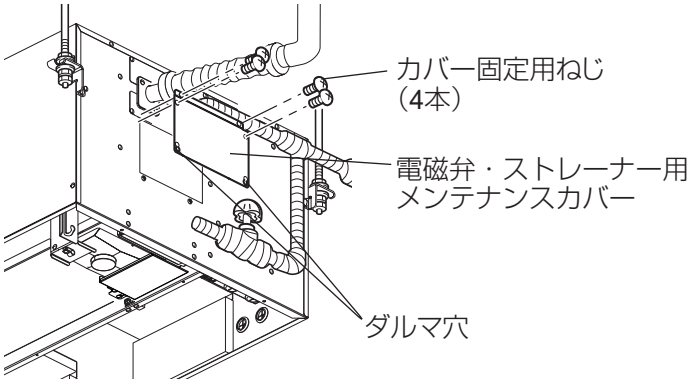
1. 製品のドレン排出口に付属のドレンホースを接続する。8ページ「注意点と作業手順」を参照ください。（排水性確保のため）

2. ドレン配管を取付け、配管の先端は必ず排水可能なところまで導く。

⚠ 注意

ドレン配管の先端を雨どい等に入れない
大雪時、雨どいが凍結して排水されず、本体から水漏れする原因

ドレン配管の途中にドレンポンプ（ドレンアップメカ）を接続して排水を処理しない
製品の異常停止や、ドレンポンプの故障により水漏れし、天井・床・その他、大切なものを濡らす原因

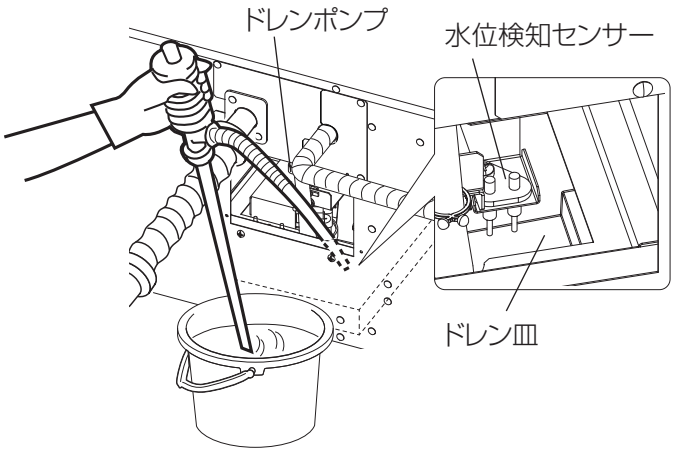


3. 排水が排出されることを確認する。

（1）電磁弁・ストレーナー用メンテナンスカバーを取りはずす。

①カバー固定用ねじ4本をはずし、ダルマ穴のねじ2本をゆるめる。

②電磁弁・ストレーナー用メンテナンスカバーを手前に取りはずす。



（2）ドレン皿に約 1000cc 注水する。

お願い

- 直接ドレンポンプ、水位検知センサーに水を掛けないでください。
- ドレン皿の周囲の板金部分には水を付けないでください。水漏れの原因となります。
- 必要以上の水を注水しないでください。必要以上に注水するとドレンポンプが水没し、故障の原因となります。

（3）本体の電源を入れ、ポンプ試運転スイッチ（本体回路 SW7-6）を ON にして、ドレン配管の最終出口部で排水が排出されることを確認する。

（4）ポンプ試運転スイッチ（本体回路 SW7-6）を OFF にして、本体の電源を切る。

（5）電磁弁・ストレーナー用メンテナンスカバーを元通り取付ける。

据付方法 つづき

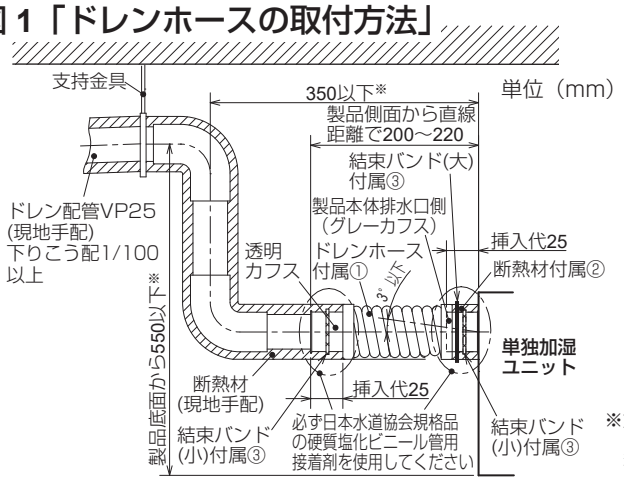
注意点と作業手順

- ドレン配管の施工時は以下に示す事柄を必ず守ってください。
- ドレン配管は、イオウ系ガスが発生する下水溝には、直接入れないでください。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水タレが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 室内を通るドレン配管は、必ず市販の断熱材 (発泡ポリエチレン比重 0.03、厚さ 10mm 以上) を巻いてください。
  ① 最上階または高温多湿の条件下で使用する場合は、上記の厚さ以上にする必要があります。
  ② 客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。
- 施工後、排水が排出されていることをドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は室外側 (排水側) が下りこう配 (1/100 以上) となるようにしてください。
- ドレン配管の立ち上げは、製品本体の排水口から手前側へ 350mm 以下で、製品底面から 550mm 以下を 1 回のみとしてください。それ以降はトラップを設けないでください。
- ドレン配管に通気管、排水口から 1/100 こう配の中で横引きでの合流は設けないでください。
- 排水が逆流するおそれがありますので、ドレン配管の途中で内径を縮小しないでください。
- ドレン配管の横引きは 20m(高低差は含みません) 以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には途中に支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくしてください。エア抜き管は絶対につけないでください。排水が吹出る場合があります。
- ドレン揚程の処理は以下の図に示す範囲で行ってください。守られないと漏水の原因となります。
- ドレン配管は硬質塩ビパイプ一般管 VP25（外径 φ 32) を使用してください。
- 必ず付属のドレンホースを使用し、単独加湿ユニットのドレン口と現地配管の距離は図 1 に従い、工事を行ってください。ドレンホースの透明カフスは必ずドレン配管側（排水の流れの可視化するため）に接続してください。
- ドレンホースに無理な引張・圧縮荷重がかからないようにしてください。
- ドレンホースの接合部は日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用し、接合および止水してください。また、差込部が抜けないよう付属の結束バンドにて固定してください。
- 集合配管の場合、図 2 のように本体ドレン出口より 100mm 低い位置に集合配管がくるようにしてください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生するおそれのない場所に施工してください。
  注)・ドレン配管スペースが横方向に取れない場合は、軟質塩ビカフス (現地手配) 等による接続をお薦めします。
  ・天井内が高温多湿雰囲気 (露点温度 26℃以上) で長時間運転されますと、ドレンホース部に結露する場合がありますので、そのような条件で使用する可能性がある場合は断熱材を貼付けるなどの処置をしてください。
- 給水配管、ドレン配管は必ず加湿部のメンテナンススペースを設けて配管してください。メンテナンススペースが確保されていない場合は、加湿部のメンテナンスができないおそれがあります。

作業手順（基本例）

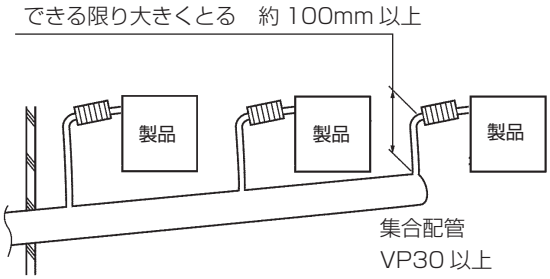
1.付属のドレンホース①を本体ドレン口に取付け、すき間が無いように奥まで差し込む。（折れ・詰まりが起こらないように水平(3°以内)で使用してください)（接着剤にて接着し、付属の結束バンド (小) ③で締付ける）
2.現地手配のドレン配管（塩ビパイプ、VP25）を取付ける。(接着剤にて接着し、結束バンド (小) ③で締付ける)
3.付属のドレンホース用断熱材②にて、本体ドレン口部を断熱し、付属の結束バンド (大) ③で締付ける。（大・小の結束バンドは、かさならないように締め付けてください）
4.断熱工事を行う。（塩ビパイプ、VP25 およびソケット (エルボ含)）
5.排水性を確認する。（据付工事説明書の 7 ページを参照ください）

図 1「ドレンホースの取付方法」



※左図範囲内で付属のドレンホースを使用してドレン揚程の処理を行ってください。

図 2「集合配管する場合」



⚠注意

- ドレン配管は、確実に排水するよう配管し、結露が生じないように保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になります。
- ドレンホース接続時に使用する接着剤は、必ず日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用してください。それ以外を使用すると、水漏れし、家財を濡らす原因になります。
- 集合配管につながる他製品の運転の影響により配管内部の圧力が上昇し、排水されにくくなる場合があります。配管内の圧力が上がらないようにご注意ください。

パネル（システム部材（別売）：PT-220CP）の取付け

天井開口寸法図（外形寸法図参照）に従って、天井に開口部を設ける。
詳しい据付方法はシステム部材（別売）インテリアパネル**PT-220CP**に同梱の据付工事説明書を参照ください。

電気工事

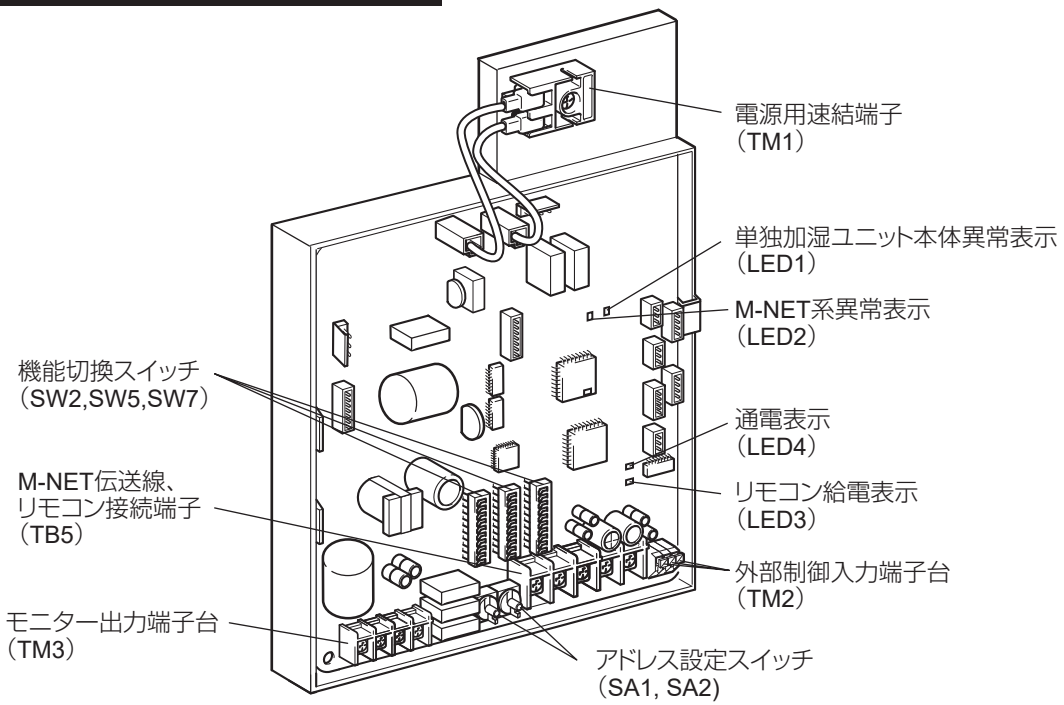
この製品はシステム構成により電気工事の方法が異なります。
それぞれ必要な部分の電気工事を行ってください。

⚠ 警告	**定格電圧、制御容量範囲内で使用する** 間違った電源を使用すると、火災や感電の原因 **電気工事は、電気工事士の有資格者が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および、据付工事説明書に従って据付ける** 電源回路容量不足や取付不備があると感電、火災の原因 **必ず専用回路とし、正しい容量の電圧・ブレーカーを使用する** 電源回路容量不足があると感電、火災の原因 **端子台接続部は指定の電線を使用して、抜けないよう確実に接続する** 接続に不備があると火災の原因 **漏電保護用に電源側へ漏電ブレーカーを使用する** 漏電した場合、火災の原因

お願い
1. 配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。
2. 伝送線と他の伝送線および電源線とは５㎝以上離して配線してください。
3. 電源線・伝送線等はメンテナンスのじゃまにならないように配線工事をしてください。
4. M-NET 伝送線は製品の外部から電源を供給します。M-NET 伝送線の接続時は、伝送線用給電ユニット等の外部電源を切って接続してください。（通電状態で接続すると感電や故障の原因となります）

コントロールボックス内の名称

※一部結線を省略しています。



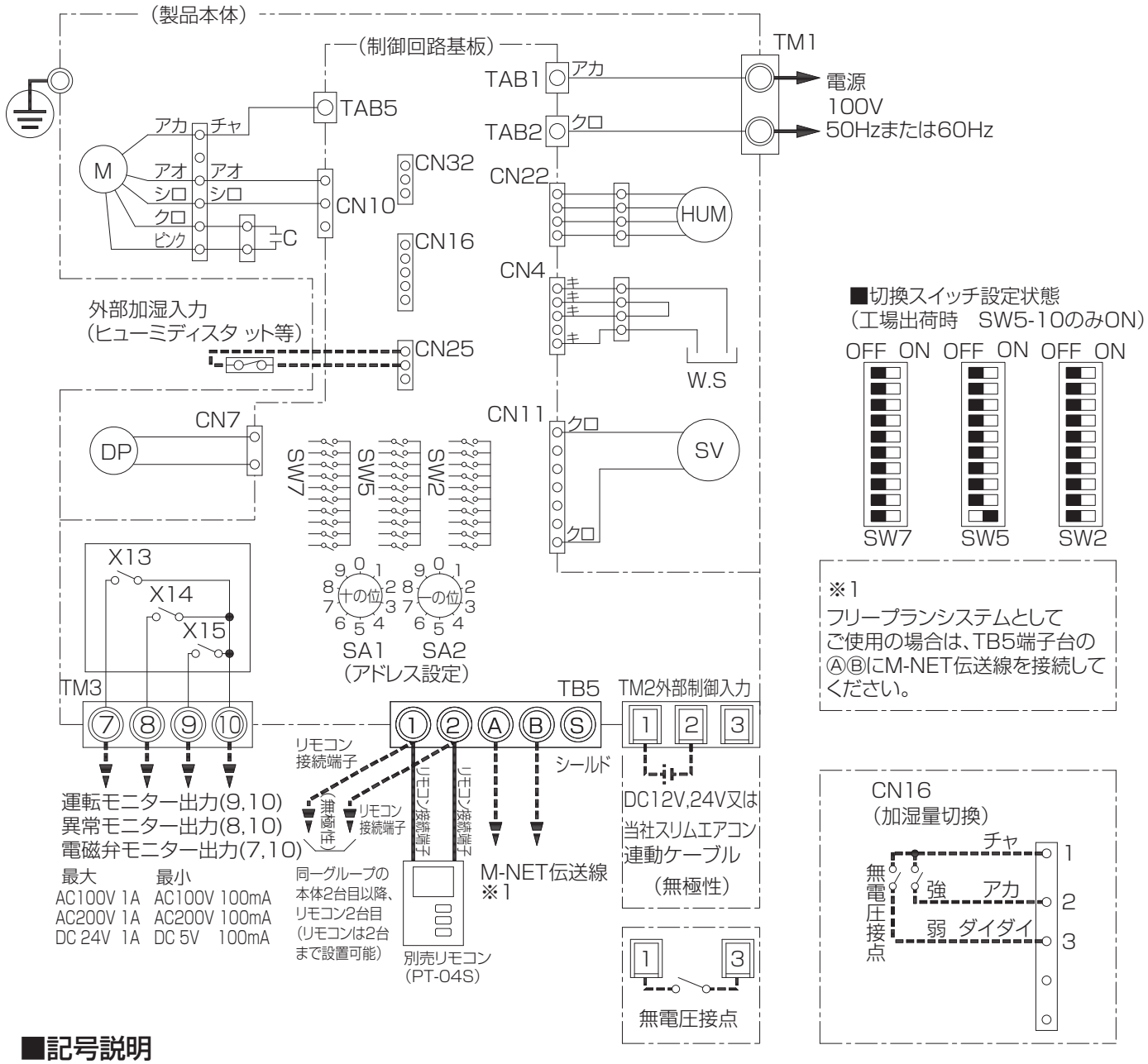
据付方法 つづき

結線図

※太線および破線部分は有資格者である電気工事士にて施工してください。

漏電保護用に電源側に漏電ブレーカーを設けてください

お願い ● コネクターやリード線の結束バンドをはずさないでください。



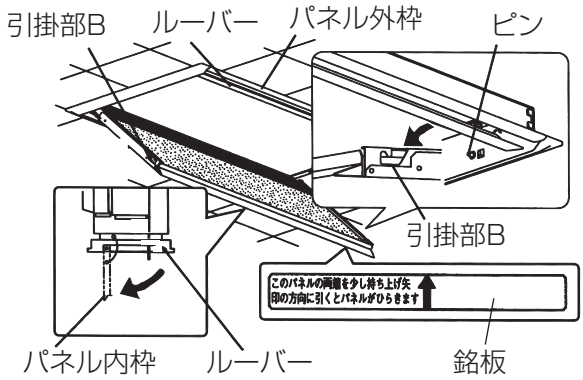
■記号説明

記号	名　　称	記号	名　　称
M	モーター	TM1	端子台（AC100V入力）
C	コンデンサー	TM2	端子台（外部制御入力）
HUM	温湿度センサー（室内温湿度検知）	TM3	端子台（運転、異常、電磁弁モニター出力）
SW2	機能切換スイッチ	CN16	コネクター（加湿量切換）
SW5	機能切換スイッチ	CN25	コネクター（外部加湿入力）
SW7	機能切換スイッチ	CN32	コネクター（遠方入力）
SA1	アドレス設定スイッチ（10の位）＊1	X13～X15	リレー接点
SA2	アドレス設定スイッチ（1の位）＊1	W.S	水検知センサー
TB5	端子台	SV	電磁弁
	（M-NET伝送線接続：無極性2線）＊1	DP	ドレンポンプ
	（リモコン接続端子：無極性2線）＊2		

＊1はフリープラン制御の場合に使用します。
＊2は別売リモコン使用時または1グループに複数台の単独加湿ユニットを接続する場合に結線してください。

電源線接続のしかた

1

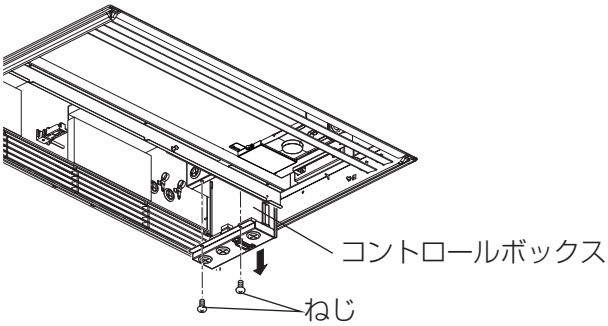


パネルを開ける

(1) パネル内枠を引きながら、引掛部Bをパネル外枠のピンからはずす。

(2) パネル内枠を持ちながら開く。

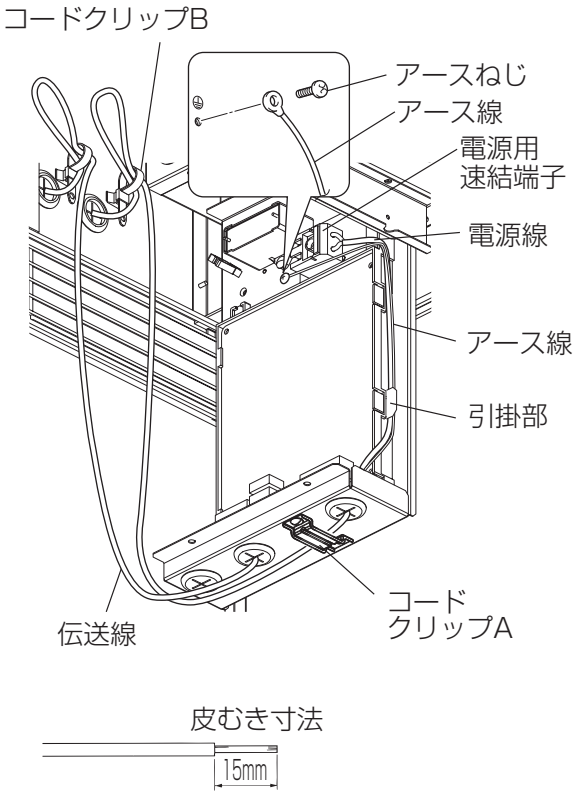
2



コントロール部分の引き降ろし

- ねじ2本をはずして、コントロールボックス底板を手で押さえながら真下方向にゆっくりと引き降ろす。

3



1. 電源線（単線φ1.6　例VVF）を電源用速結端子に表示されている皮むきゲージに合わせ皮むきし、電源用速結端子に確実に差し込む。

- 電源線はコードクリップAで固定する。
- 電源線は図のように引掛部の裏側に配線する。

お願い

- 電線の皮むき寸法は15mmとしてください。皮むき寸法が長すぎますと芯線どうしが接触して短絡するおそれがあります。
- 電源線と伝送線は、誤動作防止のため5cm以上離して配線してください。
- 電源線を伝送線端子台に接続しないように注意してください。
- 必ず漏電ブレーカーを設置してください。

2. アース工事

- コントロールボックスに締め付けてあるアースねじをはずして、アース線を取付ける。

3. 各配線を固定する

- 電源線とアース線をコードクリップBで固定する。

お願い

- 電源線、アース線はメンテナンス用に余裕を持たせ、コードクリップBで固定してください。

4

結線が終わったら、元通りコントロールボックスを取付ける。

お願い

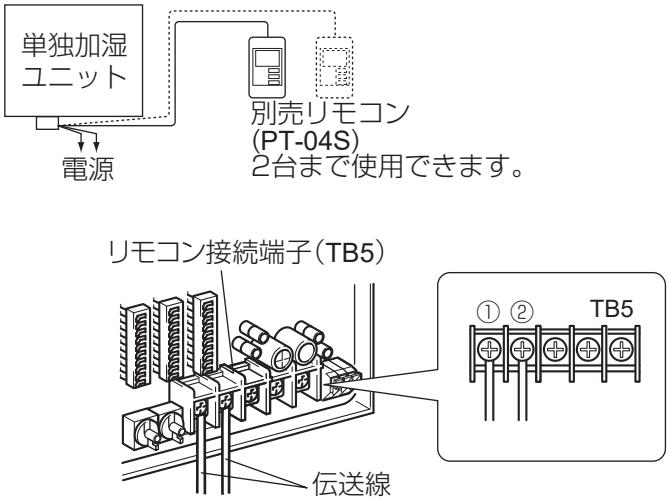
- コントロールボックスを取付ける際に、リード線をかみこまないように注意してください。

据付方法 つづき

システム構成 ……必要なところを接続してください。

1 別売リモコン（PT-04S）と接続する場合
2 「空調機などの外部機器」と連動する場合
3 ビル管理システム等パルス出力機器と連動する場合
4 複数台運転する場合
5 複数の外部機器と連動する場合
6 異常信号・電磁弁動作信号を取り出したい場合
7 運転信号を取り出したい場合
8 外部で加湿量を切換える場合（センサー等と接続する場合）
9 遠方/手元切換（レベル信号入力）を使用して運転/停止する場合
10 ヒューミディスタット等と接続する場合
11 当社製マルチエアコンまたは、三菱ビル空調管理システム（MELANS）と接続する場合

1 別売リモコン（PT-04S）と接続する場合



リモコンからの伝送線をリモコン接続端子（TB5）の①②に確実に接続する。（無極性）
線種：2 芯シース付ケーブル
線径：0.3mm²
以下の別売ケーブルも使用できます。
PAC-YT81HC（10m）, PAC-YT82HC（20m）

- リモコンが 2 台ある場合も同様に接続してください。
- 製品本体とリモコン間の伝送線総延長は 200m としてください。

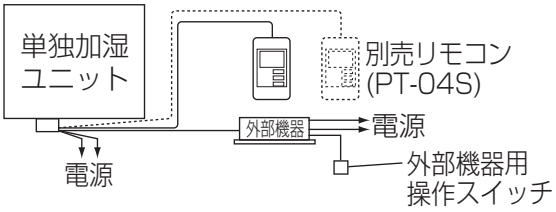
お願い

- 端子台のねじは 0.5N・m より大きなトルクで締めないでください。基板が破損するおそれがあります。
- 電源線および M-NET 伝送線を接続しないように注意してください。

メモ

- 1 つの入力端子に接続できる伝送線は 4 本までです。
- PT-04S 以外のリモコン（PZ-N43SMF2、PGL-61DR、PT-03S 等）は接続できません。

2 「空調機などの外部機器」と連動する場合



(1) 外部機器の運転信号を外部制御入力（TM2）に接続します。

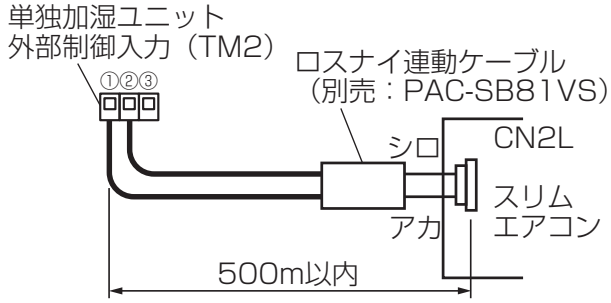
外部機器の運転信号のタイプにより接続方法が異なります。

(2) パルス入力スイッチ（SW2-2）が「OFF」になっているか確認します。（出荷状態は「OFF」に設定されています）

お願い

- 線の抜差時、端子を 0.5N・m より大きな力で押さえないでください。

当社製スリムエアコン＋ MA リモコンのとき



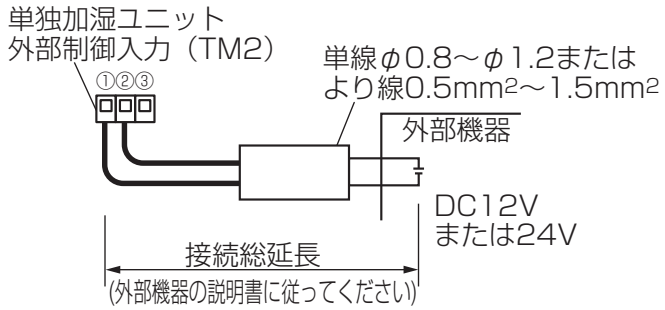
ロスナイ連動ケーブルのコネクタ側をスリム室内基板上の CN2L に接続し、リード線側を外部制御入力（TM2）の①、②に接続する。（無極性）

- ロスナイ連動ケーブルと電源線は、誤動作防止のため、5cm 以上離して配線してください。

メモ

- このシステムでは別売リモコン（PT-04S）は使用できません。
- 単独加湿ユニットの運転／停止および加湿量の切換えは MA リモコンにて行ってください。
- スリムエアコンの運転モードが暖房のときに加湿を行います。暖房以外（冷房や送風）のときは、加湿を行いません。

外部機器の運転信号が有電圧 DC12V または 24V のとき

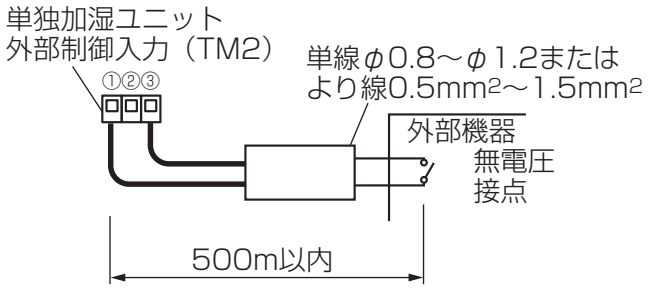


お客様手配の伝送線を介して外部機器からの運転信号を外部制御入力（TM2）の①②に接続する。（無極性）
DC12V または DC24V 入力時運転します。

お願い

- 運転信号の ON 時間、OFF 時間は 10 秒以上としてください。

外部機器の運転信号が無電圧接点のとき



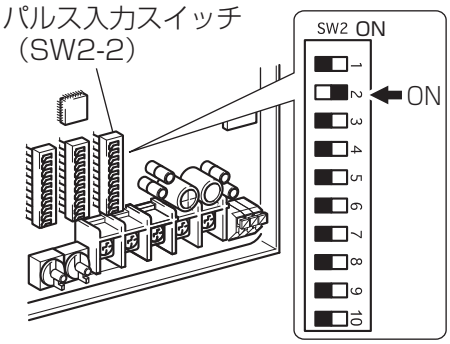
お客様手配の伝送線を介して外部機器からの運転信号を外部制御入力（TM2）の①③に接続する。
接点 ON（閉）時運転します。

お願い

- 無電圧接点にフォトカプラ等の有極性接点を使用する場合は ⊕側を③に ⊖側を①に接続してください。
- 運転信号の ON 時間、OFF 時間は 10 秒以上としてください。

据付方法 つづき

3 ビル管理システム等パルス出力機器と連動する場合



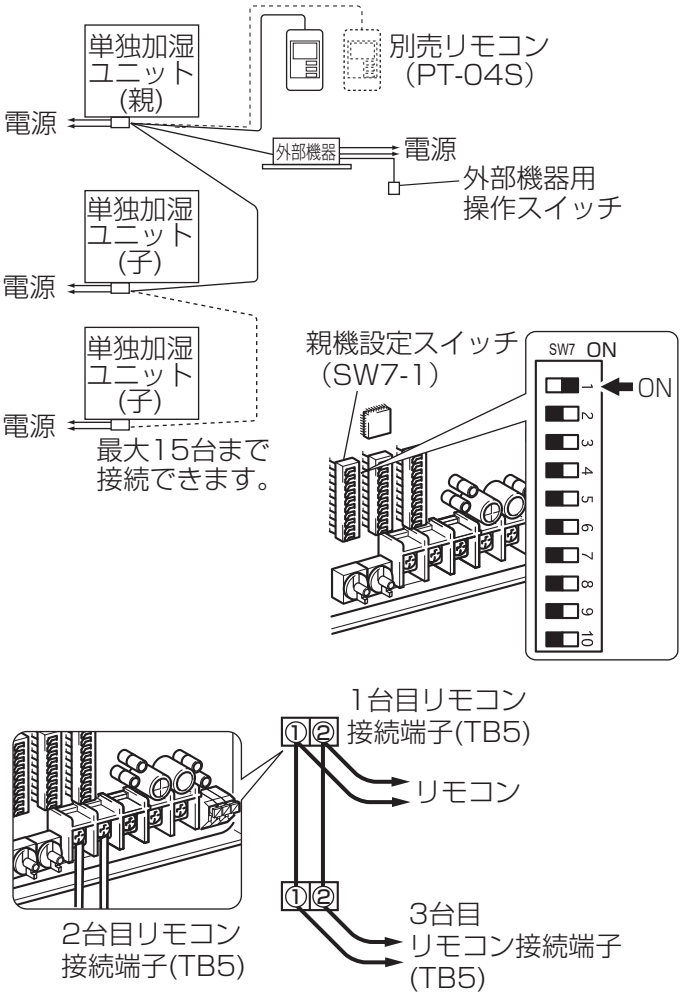
(1) パルス入力スイッチ（SW2-2）を「ON」にします。（「機能設定 1（SW2-2）パルス入力の設定」参照）
(2) ビル管理システム等のパルス信号出力を外部制御入力（TM2）に接続します。

パルス信号のタイプにより接続方法が異なります。

2「外部機器の運転信号が有電圧 DC12V または 24V のとき」または、「外部機器の運転信号が無電圧接点のとき」を参照してください。

- パルス信号の ON 時間は 0.2 秒以上、OFF 時間は 10 秒以上としてください。

4 複数台運転する場合



(1) 単独加湿ユニット 1 台目から 2 台目へ 2 台目から 3 台目へ…
最大 15 台までを伝送線で接続する。
線種：2 芯シース付ケーブル
線径：0.3mm²
各製品間、および別売リモコン（PT-04S）と製品間の伝送線総延長は合計で 200m 以内としてください。
(2) 外部機器と連動する場合、外部機器の運転信号を入力する単独加湿ユニットは親機設定スイッチ（SW7-1）を「ON」に切換えます。

お願い

- **端子台のねじは 0.5N・m より大きなトルクで締めないでください。基板が破損するおそれがあります。**
- **親機設定の単独加湿ユニットは 1 台のみとしてください。**

メモ

- 1 つのリモコン接続端子に接続できる伝送線は、4 本までです。
- 親機設定の単独加湿ユニットのみ外部機器の運転信号を入力することができます。
- 外部機器の運転信号を入力しない場合は、単独加湿ユニット複数台運転であっても親機設定は必要ありません。
- 各単独加湿ユニットはそれぞれに電源を接続してください。

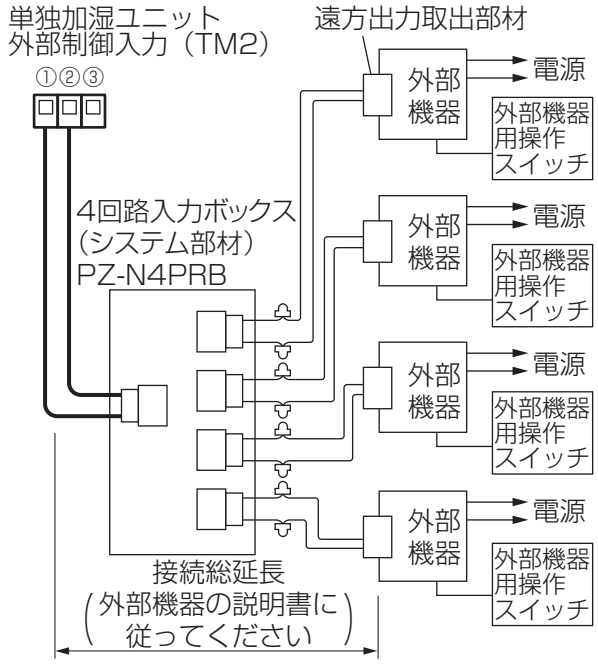
5 複数の外部機器と連動する場合

当社製スリムエアコンとロスナイ連動ケーブルで接続する場合は複数台運転できません。遠方出力取出部材を介して無電圧接点信号を利用してください。

お願い ● 線の抜差時、端子を 19.6N より大きな力で押さえないでください。

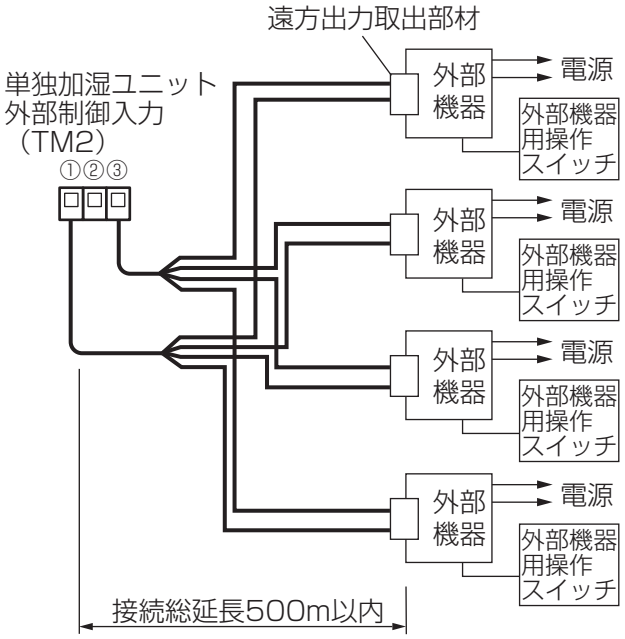
外部機器の運転信号が有電圧 DC12V のとき

● システム部材の 4 回路入力ボックス（PZ-N4PRB）を使用して、外部制御入力（TM2）の①②に接続する。（無極性）



外部機器の運転信号が無電圧接点のとき

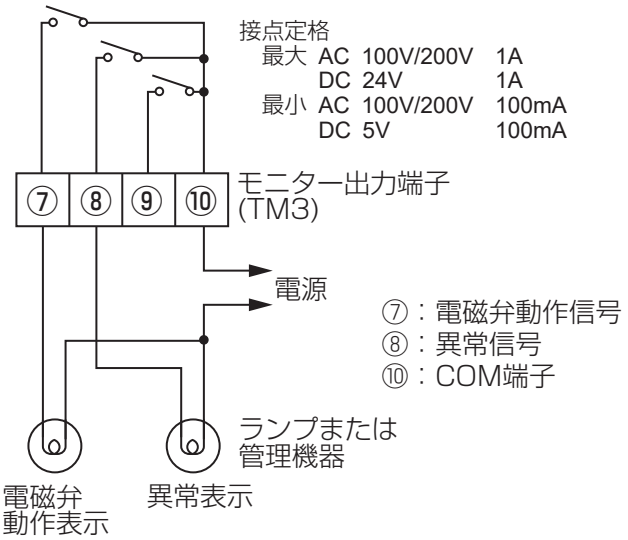
● 無電圧接点で遠方出力取出部材を介して外部制御入力（TM2）の①③に接続する。



お願い

● 無電圧接点にフォトカプラ等の有極性接点を使用する場合は ⊕ 側を③に ⊖側を①に接続してください。
● 運転信号の ON 時間、OFF 時間は 10 秒以上としてください。

6 異常信号・電磁弁動作信号を取り出したい場合



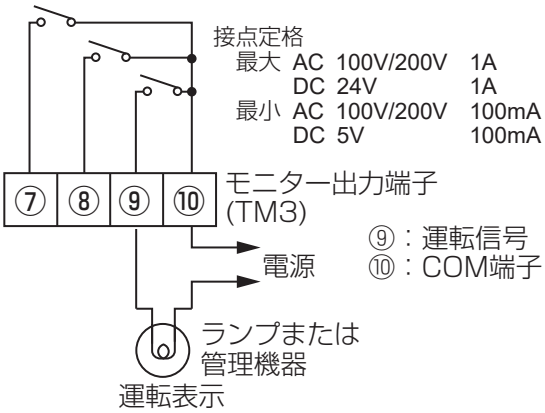
結線図を参照してモニター出力端子（TM3）の⑦⑩または⑧⑩に接続する。

お願い

● 端子台のねじは 0.5N・m より大きなトルクで締めないでください。基板が破損するおそれがあります。
● 別売リモコン（PT-04S）を使用せず、かつ MELANS に接続しない場合、異常モニター出力端子を使用して単独加湿ユニットの異常を確認できるようにしてください。

据付方法 つづき

7 運転信号を取り出したい場合



結線図を参照してモニター出力端子（TM3）の⑨⑩に接続する。

お願い

- 端子台のねじは 0.5N・m より大きなトルクで締めないでください。基板が破損するおそれがあります。

メモ

- 外部入力信号に対する応答時間は、下表のようになります。

外部信号形態	応答時間
レベル信号	最大 7sec
パルス信号	最大 200msec

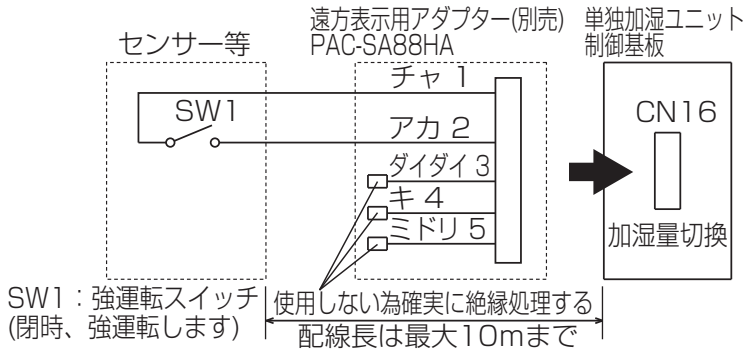
8 外部で加湿量を切換える場合（センサー等と接続する場合）

市販のセンサー等を使用し図のように、コネクター（加湿量切換）CN16 へ別売の遠方表示用アダプター（PAC-SA88HA）を差し込んで結線する。

メモ

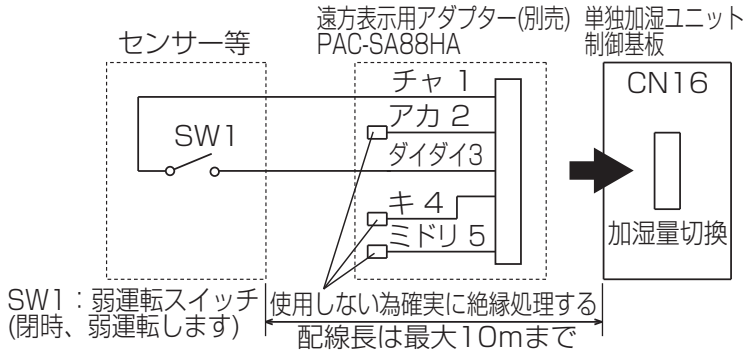
- 1 つのセンサー等で単独加湿ユニット複数台を制御することはできません。1 台ごとにセンサー等を接続してください。

■外部で強制強運転させる場合



SW1 ON 時はリモコンの設定に関係なく加湿量は強となります。
常時弱運転を行い、外部のセンサーが検知したときに強運転になるような使い方をします。
※内蔵温湿度センサーによる加湿自動運転中に高湿度を検知し、30 分間自動停止（送風機「停止」/ 電磁弁「閉」）となった場合は、SW1 ON 時も 30 分間自動停止の動作が優先されます。

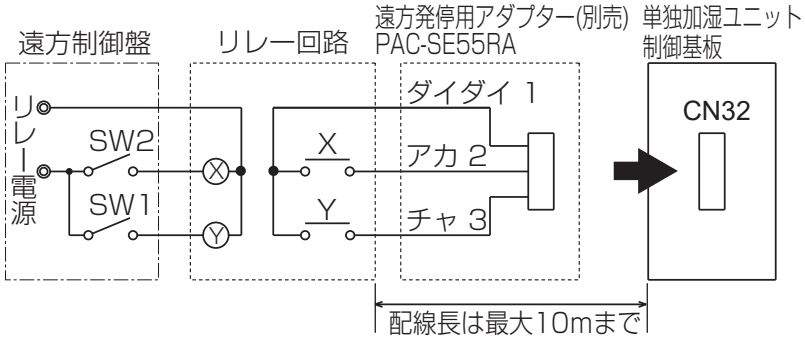
■外部で強制弱運転させる場合



SW1 ON 時はリモコンの設定に関係なく加湿量は弱となります。
常時強運転を行い、外部のセンサーが検知したときに弱運転となるような使い方をします。
※内蔵温湿度センサーによる加湿自動運転中に高湿度を検知し、30 分間自動停止（送風機「停止」/ 電磁弁「閉」）となった場合は、SW1 ON 時も 30 分間自動停止の動作が優先されます。

9 遠方 / 手元切換（レベル信号入力）を使用して運転 / 停止する場合

別売の遠方発停用アダプター（PAC-SE55RA）を制御基板上のコネクター CN32 に接続する。



SW1　ON 時は別売リモコン（PT-04S 等）での運転 / 停止ができません。
SW2　SW1 ON 時 SW2 の ON で運転、SW2 の OFF で停止できます。

SW1：遠方／手元切換スイッチ
SW2：発停スイッチ
X, Y：リレー（接点定格 DC1mA）。

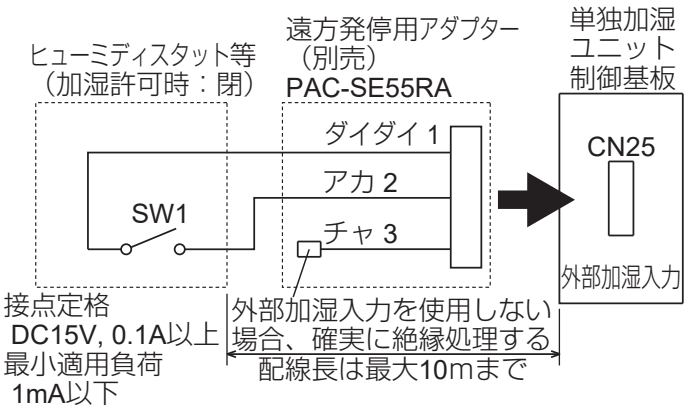
お願い

- CN25 と CN32 を間違えないように注意してください。

メモ

- 遠方入力中（SW1 が ON のとき）は別売リモコン（PT-04S）、外部機器、三菱ビル空調管理システム等からの運転 / 停止を禁止します。
- 単独加湿ユニット複数台を制御する場合、4 を参照し、親機設定とリモコン接続端子（TB5）の接続を行ってください。
- 強制停止で使用する場合、コネクター CN32 の②（アカ）を接続せず、SW1 の ON で強制停止、OFF で強制停止の解除を行います。
- 工場出荷時の設定では、遠方入力で製品を停止させた場合、停止から５分後に加湿エレメント乾燥運転を自動的に行います。遠方入力で停止中に送風機を動かしたくない場合は、「機能設定 6（SW5-3）緊急停止設定」を参照してください。

10 ヒューミディスタット 等と接続する場合



回路基板コネクター CN25 に別売の遠方発停用アダプター（PAC-SE55RA）を使用して、①ダイダイ、②アカにヒューミディスタット等を接続する。
※「機能設定 11（SW5-9）外部加湿入力接続設定」の設定が必要になります。

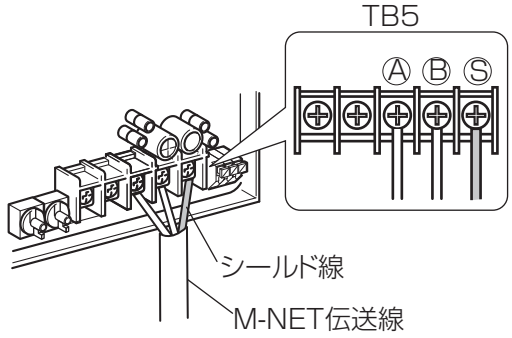
お願い

- CN25 と CN32 を間違えないように注意してください。

メモ

- ヒューミディスタットで送風機、電磁弁が停止の場合も別売リモコン（PT-04S）は運転の表示を行います。
- 別売リモコン（PT-04S）または外部機器の運転信号で製品が運転している場合、ヒューミディスタットでの制御が可能となります。
- ヒューミディスタット等で製品の運転 / 停止を行う場合は 2 を参照し、外部制御入力（TM2）に接続してください。

11 当社製マルチエアコンまたは、三菱ビル空調管理システム（MELANS）と接続する場合



アドレス設定が必要です。（機能設定参照）

M-NET 伝送線…三菱ビル空調管理システム（MELANS）につなぎます。

種類（シールド線　CVVS・CPEVS・MVVS）

線径　　1.25mm2 ～ 2.0mm2

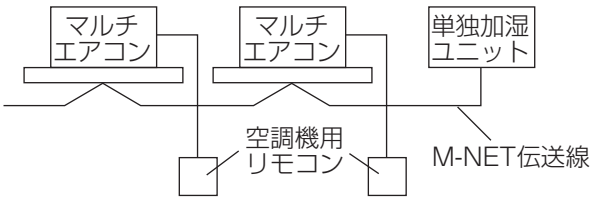
- M-NET 伝送線をリモコン接続端子（TB5）のⒶⒷに確実に接続する。

※ PZ-N52SF2 は使用できません。

お願い

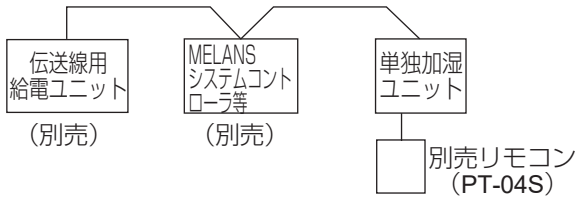
- 端子台のねじは 0.5N・m より大きなトルクで締めないでください。

当社製マルチエアコンと連動する場合



- 複数の単独加湿ユニットをマルチエアコンと連動させる場合は 4 の接続が必要です。親機設定した単独加湿ユニットとマルチエアコンを連動させてください。
- マルチエアコンの運転モードが暖房のときに加湿を行います。

MELANS と接続する場合



- 別売のシステムコントローラから単独加湿ユニット等の空調機器を集中管理します。
- システム構成によっては、別売の伝送線用給電ユニットが必要となります。

メ モ

- マルチエアコンの運転モードが暖房以外（冷房や送風）のときは加湿を行いません。
- 別売リモコン（PT-04S）を使用している場合は「OFF」が表示されます。
- 運転モニター出力端子（TM2）の⑨⑩は ON（閉）を出力します。
- MELANS でシステムコントローラ等を使用している場合、運転の表示となります。
- 下記の緊急停止入力による停止では、加湿エレメント乾燥機能等によりファンが回る場合があります。
  - ・ON/OFF リモコン（PAC-YT40ANR-W1）（※ 1）
  - ・コントローラ下位設定のシステムリモコン（PAC-SF50AT（1））（※ 1）
- 下記使用の BACnet®からの火災制御による停止信号、および BACnet®からの緊急停止（個別）指令による停止では、加温エレメント乾燥機能等によりファンが回る場合があります。
  - ・BM アダプター（PAC-YW01BAC）（※ 1）

※ 1：2016 年 10 月時点の生産機種。既設の生産終了機種については、販売店へお問い合わせください。

※ BACnet®は ASHRAE:American Society of Heating, Refrigerating and Air-Conditioning Engineers, Inc. の登録商標です。

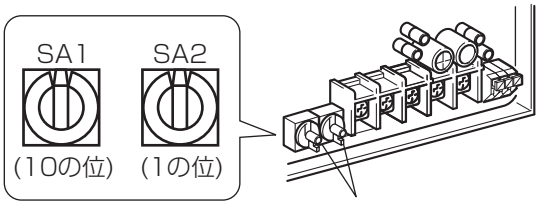
- PT-04S 以外の手元リモコンは使用できません。ロスナイと同一グループ設定することはできません。
- M-NET 伝送線は製品の外部から電源を供給します。M-NET 伝送線の接続時は、伝送線用給電ユニット、当社マルチエアコン室外ユニット等の外部電源を切って接続してください。（通電状態で接続すると感電や故障の原因となります）

機能設定

当社製マルチエアコンまたは、三菱ビル空調管理システム（MELANS）と接続する場合はアドレス設定が必要です。

アドレス設定のしかた

必ず元電源を切った状態で行ってください。



単独加湿ユニット専用のアドレス設定をする場合は下記により行ってください。
（ユニットアドレスの決めかたについては現地のシステムにより異なりますので技術資料等を参照してください。）

1. ねじ 2 本をはずしてコントロールボックスを引き降ろす。
2. 基板上のアドレス設定スイッチを、マイナスドライバー等で回す。

- （SA1）は 10 の位、（SA2）は 1 の位を示します。
- 工場出荷時は「00」です。

※アドレス番号を変更しますと、メモリ内のデータの一部が自動的にリセットされます。

機能切換スイッチ（SW2, 5, 7）の切換え

基板上の機能切換スイッチ（SW2, 5, 7）にて必要な機能設定を行います。

お願い

- 工事終了後、機能設定により単独加湿ユニットの機能を変更した場合は、必ず設定内容を各表のチェック欄に○印などで記入して確認してください。
  本体回路基板を交換したときは、機能設定を交換前と同じ設定にしてください。

（SW2）

1	■□	送風機・加湿器試運転
2	■□	パルス入力設定
3	■□	加湿量設定
4	■□	加湿量設定
5	■□	使用しません（OFF のこと）
6	■□	使用しません（OFF のこと）
7	■□	使用しません（OFF のこと）
8	■□	使用しません（OFF のこと）
9	■□	使用しません（OFF のこと）
10	■□	強制乾燥運転

（SW5）

1	■□	遅延設定
2	■□	モニター出力設定
3	■□	緊急停止設定
4	■□	停電自動復帰
5	■□	エアフィルターメンテナンス表示設定
6	■□	外部加湿入力親機連動設定
7	■□	連動モード設定
8	■□	
9	■□	外部加湿入力接続設定
10	□■	使用しません（ON のこと）

（SW7）

1	■□	親機設定
2	■□	加湿自動運転時の目標湿度設定
3	■□	
4	■□	
5	■□	加湿禁止領域設定
6	■□	ドレンポンプ試運転
7	■□	使用しません（OFF のこと）
8	■□	使用しません（OFF のこと）
9	■□	使用しません（OFF のこと）
10	■□	使用しません（OFF のこと）

1（SW2-2） パルス入力設定
2（SW2-3,4）加湿量設定
3（SW2-10）強制乾燥運転
4（SW5-1） 遅延設定（空調機暖房起動時の遅延動作）
5（SW5-2） モニター出力設定
6（SW5-3） 緊急停止設定
7（SW5-4） 停電自動復帰
8（SW5-5） エアフィルターメンテナンス時間表示設定
9（SW5-6） 外部加湿入力親機連動設定
10（SW5-7,8） 連動モード設定
11（SW5-9） 外部加湿入力接続設定
12（SW7-1） 親機設定
13（SW7-2,3,4）加湿自動運転時の目標湿度設定
14（SW7-5） 加湿禁止領域設定

1 （SW2-2）パルス入力設定

ビル管理システム等からのパルス信号機器を外部入力に接続して利用する場合に設定します。

本体回路			モード
	OFF ON	チェック	
SW2	2 ■□		パルス入力なし（工場出荷時）
	2 □■		パルス入力あり

機能設定　つづき

2（SW2-3,4）加湿量設定

加湿量を強あるいは弱に固定する場合に設定します。

本体回路			モード	動　作
	OFF　ON	チェック		
SW2	3 ■□ 4 ■□		通常（工場出荷時）	リモコンからの加湿量操作により強・弱が切り換わります。
	3 □■ 4 ■□		加湿量強固定	リモコンからの操作に関係なく加湿量は強で運転します。※1
	3 ■□ 4 □■		加湿量弱固定	リモコンからの操作に関係なく加湿量は弱で運転します。※1

※1 内蔵温湿度センサーによる加湿自動運転中に室内高湿度を検知し、30 分間自動停止（送風機「停止」/ 電磁弁「閉」）となった場合は、「30 分間自動停止」の動作が優先されます。

3（SW2-10）強制乾燥運転

単独加湿ユニットの加湿器へ給水を確認後、手動で加湿エレメントの乾燥運転を実施させます。スイッチ操作から 2 時間、送風機が強風量で運転します。

本体回路			動　　作
	OFF　ON	チェック	
SW2	10 ■□		乾燥運転なし（工場出荷時）
	10 □■		スイッチを OFF → ON → OFF と操作すると強風量にて乾燥運転を 2 時間実施します

■加湿器へ給水確認後、SW2-10 を OFF → ON → OFF として乾燥運転を実施してください。

4（SW5-1）遅延設定（空調機暖房起動時の遅延動作）

当社製マルチエアコン、スリムエアコンの暖房運転、または外部機器の運転信号で運転開始したとき、30 分だけ遅れて単独加湿ユニットが運転するモードです。

本体回路			動　作
	OFF　ON	チェック	
SW5	1 ■□		通常（工場出荷時）遅延動作なし
	1 □■		遅延動作 30 分

※製品を停止させてから、2 時間以内は遅延動作が無効となります。
※別売リモコン（PT-04S）を使用している場合で、当社製マルチエアコン、スリムエアコンが冷房で運転を開始したときも、遅延動作の表示を行いますが加湿は行いません。

5（SW5-2）モニター出力設定

本体回路			出力端子	動　作
	OFF　ON	チェック		
SW5	2 ■□		TM3 ⑨⑩	運転モニター出力設定 単独加湿ユニット運転時モニター出力 ON（閉）（工場出荷時）
	2 □■			送風機モニター出力設定 送風機の動作時にモニター出力 ON（閉）

6 （SW5-3）緊急停止設定

遠方 / 手元切換入力を使用し、遠方入力で製品を停止させた場合、加湿エレメント乾燥運転を行うかどうかを設定します。

本体回路			モード	動　　作
	OFF　ON	チェック		
SW5	3 ■□		通常停止	遠方入力で製品を停止させた場合、別売リモコン（PT-04S）等で停止させた場合と同様、製品停止から５分後に加湿エレメント乾燥運転を行います。（工場出荷時）
	3 □■		緊急停止	遠方入力で製品を停止させた場合、加湿エレメント乾燥運転は行いません。

※ 緊急停止の解除後は、一度製品の運転 / 停止操作を行う等で加湿エレメント乾燥運転を行ってください。乾燥運転を行わないと残留水が腐敗し、異臭が発生する場合があります。異臭が発生した加湿エレメントは交換が必要となります。
※ MELANS に接続し、システムコントローラ等で集中管理を行っている場合、システムコントローラ等の緊急停止信号と併用することはできません。緊急停止はシステムコントローラ等から行ってください。

7 （SW5-4）停電自動復帰

停電後、電源復旧したときの運転状態を設定します。

本体回路			動　作
	OFF　ON	チェック	
SW5	4 ■□		復帰後停止（工場出荷時）
	4 □■		復帰後停電前の状態で運転

8 （SW5-5）エアフィルターメンテナンス時間表示設定

エアフィルターのメンテナンス表示を行わない場合に設定します。
工場出荷時はエアフィルターメンテナンス表示する（3000 時間）に設定されています。

本体回路			メンテナンス表示
	OFF　ON	チェック	
SW5	5 ■□		エアフィルターメンテナンス表示する（3000 時間）（工場出荷時）
	5 □■		エアフィルターメンテナンス表示しない

お願い

- 単独加湿ユニット積算運転時間により 3000 時間が経過しますと、別売リモコン（PT-04S）にエアフィルターの清掃時期を表示します。清掃後リモコンの取扱説明書によってリセット操作を行い、積算時間をリセットしてください。
- 当社製マルチエアコンと連動している場合、マルチエアコンのリモコンにも表示されます。
- MELANS に接続し、システムコントローラで集中管理を行っている場合、システムコントローラにも表示されます。

9 （SW5-6）外部加湿入力親機連動設定

市販のヒューミディスタット等を接続し、単独加湿ユニット複数台を制御する場合に設定します。
「機能設定 11（SW5-9）外部加湿入力接続設定」とあわせて設定してください。

本体回路			モード	動　　作
	OFF　ON	チェック		
SW5	6 ■□		非連動	各製品に接続したヒューミディスタット等で個別制御を行います。 製品１台につき１つのヒューミディスタット等が必要となります。 （工場出荷時）
	6 □■		親機連動	親機に接続したヒューミディスタット等で一括制御を行います。 １つのヒューミディスタット等で単独加湿ユニット複数台を制御します。

機能設定　つづき

10（SW5-7,8）連動モード設定

外部機器の運転・停止に対して単独加湿ユニットをどのように動作させるか設定します。

本体回路			モード	動　作
	OFF　ON	チェック		
SW5	7 ■□ 8 ■□		ON/OFF 連動 （工場出荷時）	外部機器の運転・停止により単独加湿ユニットが運転・停止する。 リモコンまたは MELANS による後押し操作可能。
	7 □■ 8 □■		外部入力優先	外部機器の運転・停止により単独加湿ユニットが運転・停止する。 外部機器の停止時のみリモコンまたは MELANS 操作有効。

11（SW5-9）外部加湿入力接続設定

市販のヒューミディスタット等を接続する場合に設定します。

本体回路			モード	動　作
	OFF　ON	チェック		
SW5	9 ■□		無効	外部加湿入力を使用しません（工場出荷時）
	9 □■		有効	市販のヒューミディスタット等を接続して、加湿制御を行います

単独加湿ユニット複数台を１つのヒューミディスタット等で制御する場合、あわせて以下の設定および接続を行ってください。
・「据付方法 4 複数台運転する場合」を参照し、親機設定とリモコン接続端子（TB5）の接続を行ってください。
・「9（SW5-6）外部加湿入力親機連動設定」を参照し、子機（親機設定スイッチが「OFF」の単独加湿ユニット）の外部加湿入力親機連動設定スイッチ（SW5-6）を「ON」に設定してください。

お願い

●市販のヒューミディスタットで制御する場合も、製品使用可能範囲（相対湿度 80%RH 以下）で制御してください。

12（SW7-1）親機設定

単独加湿ユニット複数台を以下の方法で制御する場合、信号を入力する 1 台をグループ内の親機に設定します。
・外部機器の運転信号を入力する場合。
・ヒューミディスタット等の加湿信号を入力する場合。
・当社製マルチエアコンと連動する場合。
同一グループ内で親機は 1 台のみとしてください。

本体回路			モード	動　作
	OFF　ON	チェック		
SW7	1 ■□		ー	外部信号を入力しません（工場出荷時）
	1 □■		親機	外部信号を入力します

・「据付方法 4 複数台運転する場合」を参照し、各製品間のリモコン接続端子（TB5）を接続してください。
* 外部機器の信号を入力しない場合は単独加湿ユニット複数台運転であっても親機設定は必要ありません。

13（SW7-2,3,4）加湿自動運転時の目標湿度設定

加湿自動運転時の室内湿度に対する目標湿度を設定します。

本体回路			動　　作
	OFF　ON	チェック	
SW7	2 ■□ 3 ■□ 4 ■□		加湿自動運転時の目標湿度：RH（相対湿度）40% （工場出荷時）
	2 □■ 3 ■□ 4 ■□		加湿自動運転時の目標湿度：RH（相対湿度）45%
	2 ■□ 3 □■ 4 ■□		加湿自動運転時の目標湿度：RH（相対湿度）50%
	2 ■□ 3 ■□ 4 □■		加湿自動運転時の目標湿度：AH（絶対湿度）0.0065kg/kg（DA） （22℃ 40%RH 相当）
	2 □■ 3 ■□ 4 □■		加湿自動運転時の目標湿度：AH（絶対湿度）0.0073kg/kg（DA） （22℃ 45%RH 相当）
	2 ■□ 3 □■ 4 □■		加湿自動運転時の目標湿度：AH（絶対湿度）0.0081kg/kg（DA） （22℃ 50%RH 相当）
	2 □■ 3 □■ 4 ■□		室内湿度によらず加湿を行います （目標湿度設定無効） * SW7-4 が ON でも同様です

14（SW7-5）加湿禁止領域設定

加湿自動運転時の加湿禁止設定を行います。（夏季の単独加湿ユニット誤動作防止）

本体回路			動　　作
	OFF　ON	チェック	
SW7	5 ■□		加湿禁止設定あり（工場出荷時）
	5 □■		加湿禁止設定なし

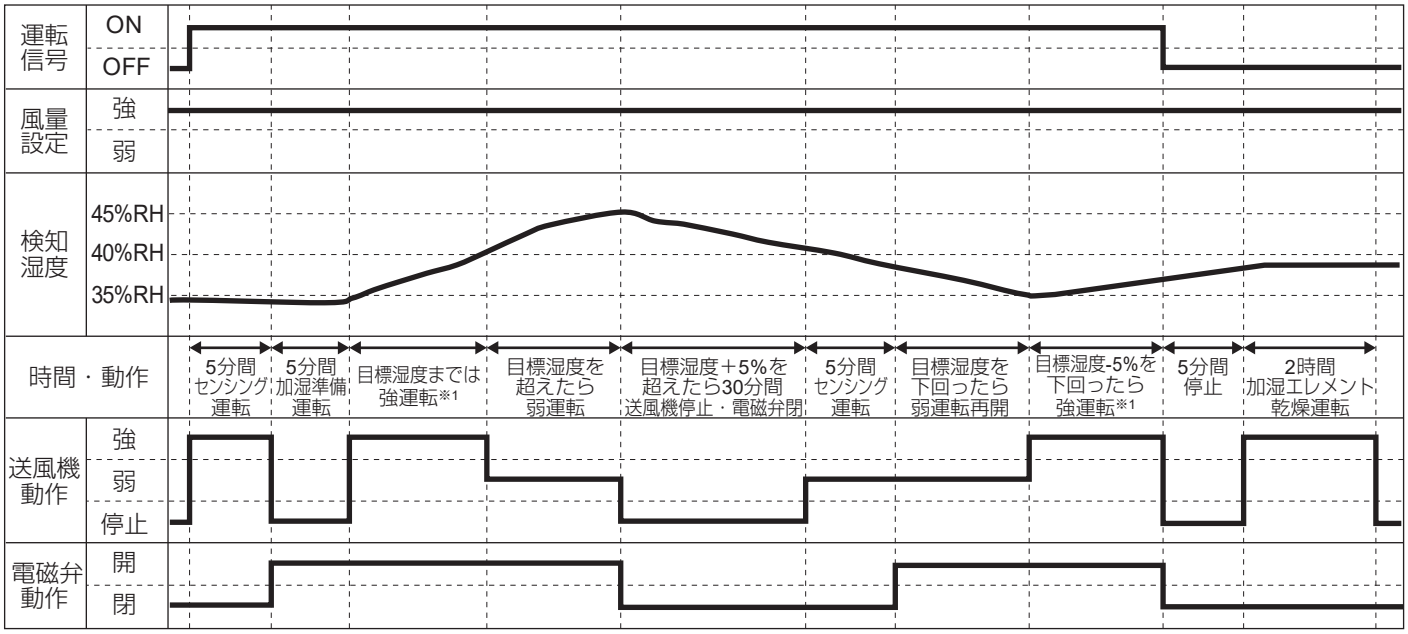
加湿禁止設定を「あり」とした場合、室内湿度センサーで検知した温湿度からエンタルピーを算出し、設定エンタルピー以上では加湿運転を禁止します。

設定エンタルピーは「13（SW7-2,3,4）加湿自動制御運転時の目標湿度設定」で設定された相対湿度と温度 26℃で決定されます。

（例）SW7-5 OFF, SW7-2,3,4 OFF（目標湿度 40% RH）
26℃（固定値）, 40%RH → 47.4KJ/kg が設定エンタルピーとなります。

機能設定　つづき

■目標相対湿度40%RHの場合



※ 運転開始時、5分間のセンシング運転（送風機運転、電磁弁閉）、またセンシング運転後に5分間の加湿準備運転（送風機停止、電磁弁開）を行います。
※ 5分間のセンシング運転で検知湿度が目標湿度を超えていた場合、30分間自動停止（送風機停止、電磁弁閉）となり、30分後に再びセンシング運転を行います。
※ 製品の運転を停止させた場合、5分間停止した後に2時間の加湿エレメント乾燥運転（送風機強運転、電磁弁閉）を行います。
※1：リモコン等の加湿量設定が弱の場合、送風機は弱で運転します。

据付工事後の確認

本体の据付工事が終わりましたら、下表にしたがってもう一度点検してください。不具合がありましたら必ず直してください。
試運転前に下記事項をご確認いただき、必ずチェックボックス☑をチェック願います。

（1）製品据付チェック	
□同梱されている付属部品を確認しましたか？	【外形寸法図 P4 参照】
□本体の据付角度は水平ですか？	【据付方法 P5 参照】
□ドレン配管、給水配管は正しく配管されていますか？	【据付方法 P6 ～ 8 参照】
□給水配管等の結露・凍結防止工事は必要に応じて行いましたか？	【据付方法 P6 参照】
□排水性の確認を行いましたか？	【据付方法 P7 参照】
（2）電気工事チェック	
□電源と本体形名、リモコンの組合せは正しいですか？	【据付方法 P12 参照】
□電源に漏電ブレーカーは設置されていますか？	【据付方法 P9 参照】
□接続電線は結線図通り結線されていますか？	【据付方法 P10 参照】
□接続電線の端子台への接続は確実ですか？	【据付方法 P11 ～ 18 参照】
□接続電線の固定は確実ですか？	【据付方法 P11 ～ 18 参照】
□基板上のコネクターのはずれはありませんか？	【据付方法 P9 参照】
□アース工事はされていますか？	【据付方法 P11 参照】
（3）機能設定チェック	
□親機設定（SW7-1）の設定は正しいですか？	【機能設定 P22 参照】
□アドレス設定スイッチ（SA1、SA2）の設定は正しいですか？	【機能設定 P19 参照】
□機能切換スイッチ（SW2、SW5、SW7）の設定は正しいですか？	【機能設定 P19 ～ 24 参照】

※初期不具合を防止するため、必ず据付工事後の確認を実施いただき、お客様にお渡し願います。

試運転

システム全体の設置完了後、天井板を張る前に誤結線がないか確認し、各システムのリモコン（外部機器用操作スイッチ等）の取扱説明書を参照して試運転を行ってください。

お願い

- 試運転時（排水時）に排水がドレン配管から戻らないことを確認してください。排水が戻る場合は、ドレン配管のこう配を見直してください。
- 試運転や立会検査実施後は、給水バルブまたはサービス弁を閉止し、排水弁を用いて給水配管内の水抜きを実施した上で、本体回路 SW2-10 にて乾燥運転操作を実施し、加湿エレメントの乾燥運転を行ってください。
- 乾燥運転を行わないと残留水が腐敗し異臭が発生する場合があります。なお、異臭の発生した加湿エレメントは交換が必要になります。
- 給水バルブまたはサービス弁を閉止しないと、凍結・ウォーターハンマー等の影響により電磁弁・ストレーナが破損し水漏れの原因となります。
- 居室、吸込空気が 0℃以下の場合は試運転を行わないでください。

メモ

- 1「ドレンポンプの試運転」、2「単独加湿ユニット単独の試運転」以外では、運転開始時にセンシング運転、加湿準備運転を行います。また、室内が高湿度の場合、自動的に停止することがあります。

1 ドレンポンプの試運転

本体回路		試　運　転　動　作
SW7	OFF　ON	
	6	・ドレンポンプに通電され、排水を開始する。

※ドレン配管工事後に 7 ページを参照し、排水が排出されることを確認してください。

2 リモコン（PT-04S）使用による試運転

操作項目	操作部	表示部	手　順
1. 運転開始	加湿 運転 / 停止 運転ランプ	加湿	加湿運転 / 停止ボタンを押す（運転ランプ点灯）
2. 加湿量の切換	強 / 弱	加湿 「弱」を示す	加湿量切換ボタンを押す 「強」または「弱」を選ぶ
3. 運転停止	加湿 運転 / 停止 運転ランプ	dry	加湿運転 / 停止ボタンを押す （運転ランプが消灯し、単独加湿ユニットは電磁弁が閉止し、5 分後に乾燥運転になります) 運転停止 5 分後に、乾燥（ dry ）が点灯します。 （2 時間経過後、乾燥運転は自動で停止します）

試運転　つづき

3　単独加湿ユニット単独の試運転

本体回路		試　運　転　動　作
SW2	OFF　ON	
	1	・送風機に通電され、加湿量強で運転する。 ・電磁弁に通電されて電磁弁が開き、給水を開始する。 ・ドレンポンプに通電され、排水を開始する。

1 運転開始	2 加湿確認	3 排水確認	4 運転停止	5 乾燥運転
1. 単独加湿ユニットに電源を供給する。 2. 試運転スイッチ（SW2-1）を「ON」にする。 〔試運転動作〕 加湿量強で運転	1で試運転スイッチ（SW2-1）をONにしたまま加湿エレメントへ水が供給されているか確認する。	ドレンポンプが動作して排水されているか確認する。	試運転スイッチ（SW2-1）を「OFF」にする。 ※試運転スイッチをOFFにした後、ドレンポンプは6分間遅れて停止します。	SW2-10を OFF→ON→OFF にして加湿エレメントの乾燥運転を実施する。（2時間）

※試運転では加湿エレメントの乾燥運転機能は働きませんので、SW2-10 による乾燥運転を必ず実施してください。

4　システム全体の中での単独加湿ユニット試運転

■空調機または外部機器と連動運転システムの場合

- 空調機のリモコンスイッチまたは外部機器用操作スイッチを利用して空調機と単独加湿ユニットの連動を確認する。
- 遅延設定されている場合は遅延時間経過後に単独加湿ユニットの運転を確認する。

■ MELANS システムの場合

- 三菱ビル空調管理システム（MELANS）のシステムコントローラ等から単独加湿ユニットの運転を確認する。

5　試運転異常があった場合

現　　象	処　　置
ドレンポンプが動作しない ドレンポンプが排水しない	● SW5-10 が「ON」になっているか確認 ● ドレンポンプが目詰まりしていないか確認 ● ドレン配管の立ち上げ、ドレン配管こう配が正しく施工されているか確認 ● ドレンポンプの劣化の場合、ドレンポンプの交換

6 試運転時異常があった場合

<table>
<tr><th>現　象</th><th>処　置</th></tr>
<tr><td>単独加湿ユニット専用リモコン（PT-04S）の運転スイッチを押しても運転しない</td><td>
● 電源確認（指定電源 100V、線径φ 1.6、開閉器容量）
● 加湿運転時の目標湿度設定（SW7-2,3,4）、加湿禁止領域設定（SW7-5）を確認してください。内蔵温湿度センサーによる加湿自動運転中に、室内検知湿度が目標湿度 +5% を超えていた場合、または加湿禁止領域となっていた場合は、30 分間自動停止（送風機「停止」/ 電磁弁「閉」）の動作となり、加湿しません
● 結線の確認（TB5 の①②にリモコンからの伝送線が接続されているか確認）
● 伝送線の短絡、断線の確認（伝送端子間電圧が DC10 ～ 13V を確認）
● 伝送線と電源線および他の伝送線とが 5cm 以上離れているか確認
● 試運転スイッチ（SW2-1）にて単独加湿ユニット単独で運転を行い運転を確認する
<table>
<tr><td>単独加湿ユニットは運転する　→　伝送線を点検</td></tr>
<tr><td>単独加湿ユニットは運転しない　→　電源の確認</td></tr>
</table>
● 単独加湿ユニット専用リモコン（PT-04S）が 3 台以上取付けられていないか確認（最大 2 台まで）
● 単独加湿ユニットとリモコン間の伝送線総延長の確認
単独加湿ユニット専用リモコン：最大 200m（単独加湿ユニット複数台の場合、製品間も含む）
</td></tr>
<tr><td>M-NET 使用時、単独加湿ユニット専用リモコン（PT-04S）または MELANS の運転スイッチを押しても運転しない</td><td>
● 電源確認（指定電源 100V、線径φ 1.6、開閉器容量）
● 加湿運転時の目標湿度設定（SW7-2,3,4）、加湿禁止領域設定（SW7-5）を確認してください。内蔵温湿度センサーによる加湿自動運転中に、室内検知湿度が目標湿度 +5% を超えていた場合、または加湿禁止領域となっていた場合は、30 分間自動停止（送風機「停止」/ 電磁弁「閉」）の動作となり、加湿しません
● 結線の確認　（TB5 の①②にリモコンからの伝送線が接続されているか確認）
（TB5 のⒶⒷに M-NET 伝送線が接続されているか確認）
● 給電ユニットの有・無及び電源が入っているか確認（単独加湿ユニットのみのシステムの場合、給電ユニットが必要です）
● M-NET 伝送線の短絡、断線の確認（伝送端子間電圧が DC20 ～ 32V を確認）
● M-NET 伝送線と電源線および他の伝送線とが 5cm 以上離れているか確認
● 単独加湿ユニット単独で運転を行い、単独加湿ユニットの運転を確認する
<table>
<tr><td>単独加湿ユニットは運転する　→　伝送線を点検</td></tr>
<tr><td>単独加湿ユニットは運転しない　→　電源の確認</td></tr>
</table>
● M-NET の伝送線総延長、伝送線給電制約を確認（技術資料等を参照してください）
</td></tr>
<tr><td>空調機または、外部機器と連動しない</td><td>
● パルス入力スイッチ（SW2-2）が「OFF」になっているか確認
● 加湿運転時の目標湿度設定（SW7-2,3,4）、加湿禁止領域設定（SW7-5）を確認してください。内蔵温湿度センサーによる加湿自動運転中に、室内検知湿度が目標湿度 +5% を超えていた場合、または加湿禁止領域となっていた場合は、30 分間自動停止（送風機「停止」/ 電磁弁「閉」）の動作となり、加湿しません
● 空調機または外部機器と単独加湿ユニット間の伝送線の総延長を確認（技術資料等を参照してください）
● 外部制御入力（TM2）の接続を確認
有電圧 DC12V または 24V 出力機器の場合　外部制御入力　①②に接続
無電圧接点出力機器の場合　外部制御入力　①③に接続
当社製スリムエアコンの場合　外部制御入力　①②に接続
● 空調機リモコン、MELANS にて登録操作を行う（空調機リモコン、MELANS の取扱説明書による）
● 当社製マルチエアコン、スリムエアコンと連動する場合、運転モードが暖房になっているか確認
● 遅延設定されていないか確認
● 外部機器からの信号線を外部制御入力からはずして確認
<table>
<tr><th></th><th>運転信号</th><th>停止信号</th></tr>
<tr><td>有電圧 DC12V または 24V 出力機器</td><td>DC12V または 24V</td><td>DC0V</td></tr>
<tr><td>無電圧接点出力機器</td><td>抵抗 0 Ω</td><td>抵抗無限大Ω</td></tr>
<tr><td>当社製スリムエアコン</td><td>DC2 ～ 6V（パルス信号）</td><td>DC2 ～ 6V（パルス信号）</td></tr>
</table>
● 単独加湿ユニット複数台運転で外部制御入力に接続されている単独加湿ユニットの親機設定スイッチ（SW7-1）が親設定になっているか確認またはその他の単独加湿ユニットは SW7-1 が OFF になっているか確認
</td></tr>
<tr><td>単独加湿ユニットが停止しない</td><td>● 試運転スイッチ（SW2-1）が「OFF」になっているか確認</td></tr>
<tr><td>コントロールボックス内部の単独加湿ユニット本体異常表示ランプ（LED1 緑）が点滅している</td><td>
<table>
<tr><td>1 回</td><td>200V が印加されている</td><td>電源電圧は 100V にしてください</td></tr>
<tr><td>2 回</td><td>単独加湿ユニット回路の故障</td><td rowspan="6">電源を切ってお買い上げの販売店にお申しつけください</td></tr>
<tr><td>5 回</td><td>温湿度センサー関係の故障</td></tr>
<tr><td>6 回</td><td>加湿コネクターのはずれ</td></tr>
<tr><td>7 回</td><td>加湿器の故障</td></tr>
<tr><td>9 回</td><td>リモコン通信異常</td></tr>
<tr><td>10 回</td><td>機能設定エラー
同一グループで親機設定（SW7-1）が 2 台以上 ON になっている</td><td>外部信号を入力する製品を親機に、それ以外を子機に設定してください</td></tr>
<tr><td>11 回</td><td>リモコン給電異常
リモコン伝送線がショートしている</td><td>リモコン伝送線を確認してください</td></tr>
<tr><td>点灯</td><td>遅延中</td><td>単独加湿ユニット専用リモコン（PT-04S）がない場合は、30 分経過後消灯（運転）します</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>コントロールボックス内部の M-NET 系異常表示ランプ（LED2 赤）が点滅している</td><td>
<table>
<tr><td>1 回 ~8 回</td><td>M-NET 通信上の異常</td><td>電源を切ってお買い上げの販売店にお申しつけください。</td></tr>
<tr><td>点灯</td><td>登録操作をしていない</td><td>コントローラにて登録操作をしてください</td></tr>
</table>
※ M-NET を使用しない場合は、LED2 の点滅・点灯は異常ではありません。
</td></tr>
<tr><td>加湿しない</td><td>
● サービス弁が開いているか確認
● 当社製マルチエアコン、スリムエアコンと連動している場合、暖房運転中か確認（暖房時に加湿器が運転します）
● ヒューミディスタットの接点が ON になっているか確認　● センシング運転中、加湿準備運転中になっていないか確認
● 加湿エレメント乾燥運転中（乾燥運転が累積で 25 時間以上行われなかった場合、運転中でも加湿エレメントへの給水を一時的に停止し、乾燥運転を行います）
● パネルを開け、加湿部下に取付けられているコネクターがはずれていないか確認してください
</td></tr>
<tr><td>吹出し空気が臭う</td><td>通常は加湿運転とともに臭いが減少しますので、臭い低減のための加湿運転を長時間（1 日ほど）行ってください。</td></tr>
</table>

■リモコンに異常情報が表示されたときはリモコンに付属の説明書に従って処置してください。
■外部機器の信号で運転させる場合は単独加湿ユニットに電源が投入されてから約 2 分後に運転します。

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、
再生紙を使用
しています。